

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500040		
法人名	社会福祉法人 大和福祉会		
事業所名	グループホーム 悠楽苑		
所在地	山口県周南市大字中須南字鎌田2553-13		
自己評価作成日	平成26年1月27日	評価結果市町受理日	平成26年6月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初から職員全員で作った基本理念と運営理念を大切に、「ゆっくり・楽しく・一緒に」は今も受け継がれています。山林に囲まれた寒い所ではありますが、地域の方々のご理解を頂き、地域との交流が円滑に行われている地域密着型のグループホームです。地域の行事は、お大師様・八幡様・揉山奉納・盆踊り・運動会・敬老会・産業文化祭・クリスマスイルミネーション点灯・マラソン大会等々。また、保育園に七夕・運動会は招待され、クリスマスは苑に招待する等の園児との交流もあります。これらは開苑以来ずっと続いています。現地では、地域の方々が一緒に車椅子を押すなどの協力もあり、日常的に地域の一員として過ごされています。

医療面では月2回の往診、法人看護師との医療連携をとり、看取介護においては安心安楽に務め職員立会いの終焉を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が評価の意義を説明され、全職員が自己評価をするための書類に記入された後話し合われまとめておられます。全職員が評価の意義と項目を理解されたうえで、目標達成計画を作成され、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所の理念について話し合われ、理念の共有に取り組まれるなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでおられます。協力医療機関でもあるかかりつけ医による情報提供書には、介護サービスについての助言や職員への助言などが記載されており、家族や職員にも分かりやすく説明される他、介護計画にも反映されるなど、利用者の支援に活かしておられます。法人看護師とも連携され、緊急時の対応など適切な医療が受けられるように支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設開設時、当時の管理者と職員の研修において一緒に作った理念である。現管理者及び職員も、その理念を確認し就業することで、実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、事業所に掲示している。管理者は、地域密着型サービスの意義や役割について全職員に説明し、全職員で話し合い、共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加し、苑内の行事に招くことで地域の一員として交流している。また、緊急時には地域の方々の協力を得られるような関係を作っている。	地域のお大師様や八幡様まつり、ふれあい夏祭り、敬老会、産業文化祭、田んぼのクリスマスイルミネーションの点灯式、マラソン大会の応援などに利用者と一緒に出かけている。事業所主催のクリスマス会には保育園児の来訪があり、保育園の七夕まつりや運動会には利用者と一緒に参加してパン食い競争などで交流している。ボランティア(ひょうたん一座)の来訪、YICの実習生の受け入れもしている。近隣の総合運動場の掃除に利用者と職員が出向いている他、散歩時に挨拶を交わしたり、花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事には利用者全員参加で地域の方々に支援の実際の一部を見て頂いたり、気軽に施設に立ち寄れるような雰囲気作りで、情報提供の場となるなど、交流の中で認知症に対してご理解や支援の方法を地域の方々に発信できるように努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	理解して取り組んでいる。	管理者が評価の意義について説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布して、記入してもらい、話し合いまとめている。目標達成計画を作成し、全職員で理念について話し合い、共有し、実践につなげている他、評価の意義の理解と活用について話し合い、全職員で取り組むなど、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、そこでの意見等をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、利用者状況、行事報告、地域行事、苦情窓口、外部評価結果、非常災害対策などについて報告し、話し合っている。メンバーの消防団員から消防団との連携や連絡方法についての提案があり話し合っている他、事業所の避難訓練に運営推進会議のメンバーや消防団員の参加を要請している。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者が運営推進会議に参加下さったり、市の担当窓口や電話等で、小さなことでも相談し助言を頂けるような協力関係を築いている。	市担当課とは、運営推進会議の他、電話や出向いて、介護保険の申請や事故報告について情報交換をしている他、事業所の状況について相談して助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは利用者の状況について電話などで相談するなど、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設前が車の往来の多い道路に面しているため安全を優先し玄関の施錠をしている。ドア開閉時にチャイムが鳴るように工夫したり、レクなどの時間を決めて開錠する等、拘束なく安全に暮らせるように努力している。	事業所独自の身体拘束に関する基本理念に基づいて全職員で研修をし、理解している。利用者の外出を察知した場合は一緒に出かけたり、レクレーションや食事の時間帯には開錠するなど工夫をしている。スピーチロックについては管理者が気づいた時に注意している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内外の研修において学ぶ機会を持ち、虐待の防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内外の研修において学ぶ機会を持ち、制度の理解に努めているが、活用までに至っていない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解、納得していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	24時間受け付ける体制と、第三者委員を選出し、外部者へ相談または苦情を申し立てられるようにしている。	苦情や相談の受付体制、第三者委員、苦情処理手続きについて契約時に利用者や家族に説明している。面会時、行事参加時、電話等で意見や要望を聞く機会を設けている他、意見箱を設置している。月1回、市の介護相談員の訪問があり、利用者の意見や要望を聞いて事業所に伝えている。家族からは運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を聞き、できる限り反映できるように心がけている。	管理者は月1回の職員会議で意見や提案を聞いている他、日常業務の中で言いやすい雰囲気づくりをして、聞いている。職員からは運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいをもって働くことができるように、努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内外の研修に参加できる機会をもち、働きながらもそのつど疑問に思うことはたずねる事ができるように関わっている。	外部研修は情報を伝え、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命伝達をしている。法人研修は月1回、看取りケア、リスクマネジメント、転倒防止、虐待防止、事例検討などを実施している。内部研修は看取りケアや身体拘束、認知症などについて、随時実施している。資格習得の支援をしている。	・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の介護職員等を受け入れる体制を整えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前には必ず面接を行い、本人の要望を聴取して、不安を取り除けるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望は大切にし、意向に沿えるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望から支援の方法を見極め、職員全員が対応できるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の分担やお互いの相談など、利用者と職員は暮らしを共にする者同士の関係を築けるように、対等の立場で関わっている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の本人への思いも大切にし、関わっている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人がいつでも訪ねてくれるよう、また馴染みの場所へ出向くことができるよう努めている。	親戚や兄弟、友人の来訪、自宅周辺のドライブ、馴染みの店での買い物、馴染みの訪問理美容院の利用、電話の支援などの他、家族の協力を得て、兄弟の見舞いや外出、外食など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が中に入ることで利用者同士が助け合って生活することができるように、また一人で孤立することがないように配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から意向を聴取したり、日々の生活で本人と対話しながら把握するように努めている。	24時間シートに日常の様子や本人の言葉を記録しているが、一人ひとりの思いや希望する暮らし方などの意向の把握には至っていない。	・思いや意向の把握方法の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・担当のケアマネージャー・相談員等からの情報収集に努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人・ご家族から聴取、協力医療機関の医師・法人看護師への相談、職員間の意見交換などを通して現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を実施し本人や家族の意向の元職員同士意見を出し合って現状に即したケアプランを作成している。	計画作成担当者や利用者を担当する職員が中心に月1回、ケアカンファレンスを開催し、本人や家族、主治医、看護師等関係者の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎の見直しをしている他、要望や状態に変化が生じた場合には、その都度モニタリングに基づいて見直しを行い、現状に合った介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の経過記録や日誌、申し送りノートを活用し職員間で情報を共有し実践につなげている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関以外の家人での受診の契約においても、ご本人のADLの低下を考慮しながら団体生活が継続できるよう職員が同行するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材や生活において必要な物品を買い物に行ったり、地域行事に積極的に参加したり、地域の保育園児の慰問を受けている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院とは常に連絡を取り合いすぐに相談できる体制を築いている。また、本人の状況により認知症専門医を受診し適切な医療を受けることができるように支援している。	本人及び家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診がある。専門医や他科受診は家族の協力を得て支援し、情報を共有している。受信結果をかかりつけ医が家族に直接説明している他、医師からの情報提供書をコピーして家族に渡している。法人の看護師との日常的な連携や緊急時のかかりつけ医との連携など、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな気付きであっても法人看護師には報告・相談し、利用者が適切な医療を受けることができるよう支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医師、または看護師との情報交換に努めている。また、本人への面会も行い、スタッフへ状態等報告している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に終末期についての家族の思いを聴取し苑の方針も伝えている。実際に終末期ケアを行ったが、家族、医師、本人、スタッフと十分に話し合うことができたので無事に終わることができた。	指針に基づいて事業所ができる対応について契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合には、主治医、看護師、家族等関係者と繰り返し話し合い、医療機関や他施設への移設の含めて方針を共有して、取り組むこととしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	一人ひとりの注意すべき点はその都度話し合い周知徹底できるようにしている。応急手当や初期対応の訓練は法人内の合同の勉強会や各々の職員に対して十分に実践に結びつくように指導を受ける機会を持っている。	ヒヤリハット、事故報告書にその日の職員が対応策を記録し、回覧して全職員が共有する他、月1回の職員会議で再度確認をして一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応については、転倒と誤嚥の勉強会をしているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災による避難訓練は年に2回実施しているが、地震、水害などを想定した訓練は未実施である。	消防署の協力を得て年2回、昼夜想定の方火災時の避難訓練、通報訓練、避難場所の確認を利用者と一緒に行っている。運営推進会議で消防団員より消防団との連携や連絡方法についての提案があり話し合っているが、避難訓練時に地域の人や消防団員の参加はなく、地域との連携については、今後検討していくこととしている。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間同士として、尊厳を失わないような対応を心がけている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを傷つけないよう言葉づかいや対応に努めている。トイレ誘導や入浴介助でのプライバシーの確保に留意し、不適切な言葉かけや対応がある時場合は管理者が指導している。個人記録等の取り扱いや守秘義務について遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時々での本人の想いを大切にし、自己決定を尊重するよう対応している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑側としての1日の流れはあるが、本人のペースにまかせていて、無理強いはしないように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容ではカット以外にパーマやカラー染めなど、その人らしくできるよう努力している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりができることを一緒にやり料理も楽しむことができるように工夫している。	近くの豆腐店へ利用者と一緒に買い物に行ったり、地域の人からの差し入れの野菜や果物を利用する他、利用者の好みを聞いて献立を作成して三食とも事業所で調理をしている。利用者は職員と一緒に下ごしらえ、味見、下膳、食器洗いをしている。季節の行事食、おやつづくり(桜餅、ホットケーキ、焼き芋、あん餅)、ラーメンパーティの他、家族の協力を得ての外出など、食事を楽しむことができるよう支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェック、こまめに水分補給ができるように職員は気を配っている。又、好みのものも飲めるようにできる限り対応している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔ケアを行い、不十分な方には職員が介助に入る。また、本人に合ったブラシなどを使用している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間シートにて排泄パターンの把握に努め、おむつの使用を減らし、トイレの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	24時間シートを活用し、一人ひとりの排泄習慣や排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく便秘をしないよう、飲食物の工夫を行っている。又、内服薬などでの排便コントロールを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	現状、利用者が希望する時間やタイミングでの入浴はできていない。	入浴は希望すれば毎日可能である。月、水、金は10時から11時30分までと、13時から15時30分までの間、火、木、土は13時から15時30分までの間を入浴時間帯としている。状態によって2人体制の入浴や清拭、足浴、シャワー浴の支援をしている。季節に応じて菖蒲湯や柚子湯にしたり、入浴剤を用いての気分転換などの支援もしている。入浴をしたくない人には時間の変更、職員の交代、言葉かけの工夫など一人ひとりに応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休まれた際には最低限の訪室での状態確認に留め、一人の時間を持つことができるように関わっている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニットごとに内服の資料を分けいつでも閲覧できるようにし、現在の服薬状況がわかるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが持てる力を発揮できるように、支援している。	習字、どんど焼き、芋掘り、バランスサッカー、風船バレー、般若心経を唱える、テレビ視聴、週刊誌や広報を読む、歌を唄う、ぬり絵、折り紙、ちぎり絵、下ごしらえ、味見、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、新聞紙でのゴミ袋作り、花壇の手入れ、嗜好品(珈琲、ミルク、紅茶、緑茶、ビールなど)など、活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に添えるようにできる限り支援している。また、家族の協力での外出や、地域行事参加等では現地においては地域の方々の協力を得ながら支援をしている。	買い物、散歩、ドライブ(米泉湖の桜、冠山のバラ園、紫陽花、果物狩り)、クリスマスイルミネーション見物(徳山駅前通り、青空公園通り)、初詣、どんど焼き、お大師様参り、地区産業祭、保育園の運動会、敬老会、盆踊りの他、家族の協力を得ての見舞いや外食、外出など、戸外に出かけられるよう支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状金銭の管理は苑側で行っているが、買い物へ出かけた際は、本人にお金の支払いをやっていただいている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば対応している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節感を取り入れた玄関の飾りや、掲示板の飾りつけなど行ない工夫している。また、グループプレでは、季節ごとのちぎり絵を作成して、玄関壁に作品を貼っている。	天窓や掃出し窓からの陽ざしで共用空間は明るく、玄関には季節に応じた作品を飾っている他、廊下の壁には利用者の行事参加時の写真を飾っている。居間にはソファや長いベンチ、テレビを配置して利用者の居場所となっている。台所からは調理の音や匂いがして、畳の間には仏壇や雛壇があり、季節感や家庭的な雰囲気を取り入れる工夫をしている。温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	苑内の様々なところに利用者同士が一緒になって過ごすことができる空間を作っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは今まで本人が使用していた馴染みのある物等自由に持ち込めるようにしている。また自分が製作したものを貼り、気持ちよく過ごすことができるようにしている。	テレビ、椅子、ぬいぐるみ、時計、利用者自身の作品、家族の写真、宗教に関する物品など使い慣れた物や好みの物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員はできない部分を援助するように心がけ、自分の事は自分でしていただくよう支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム悠楽苑

作成日：平成 26年 6 月 24 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故防止の取り組みや事故発生時の備え…転倒、誤嚥、急変や事故発生時に備えて、具体的訓練を全職員が知識のみならず技術として身につけるように取り組む。	定期的に緊急時の対応についての勉強会を開催し、知識と技術を取得する。	定期的に行うように計画を立てる。	12ヶ月
2	36	災害対策…地域との協力体制の構築を図る。	災害に対する意識を高め、入所者の安全を確保するための体制作りを行う。	運営推進会議等を活用し、災害時の対策について話し合う機会を作り、地域の方に協力して頂けるよう働きかけを行う。又、入居者一人ひとりの心身の状況を踏まえた避難マニュアルを作成し、避難訓練を実施する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。